

特集 地域の安全は住民が守る

わたしたち

自分でできる防犯対策① 愛車のカギかけ

自動車も自転車も、カギをつけたまま放置しておくのは「どうぞ盗ってください」といっているようなもの。愛車から離れるときは、短時間でも必ずカギかけを心がけましょう。



青色パトロールカー発進！今日もどこかを走っているはず。(写真は小川町内会)

この桜井地区は、区画整理で姿が変わりつつある街。特に一昨年の秋、大きな商業施設が開店して、桜井駅の西側がにぎやかになりました。しかし、良いことばかりではなく、犯罪の件数が増えつつあるのも現状です。そんな中、昨年6月にこの地区が「犯罪抑止モデル地区」として指定されることとなりました。以来、町内会で地域内のパトロール活動を強化しています。このほかにも、防犯講習会や自転車の施錠を呼びかけるなど、さまざまな活動を行ってきました。活動を始めたことで、増加する一方だった犯罪件数が、いっ

たんは減少に転じました。しかし、半年ほどたった今年の春ごろ、再び増加が始まってしまったのです。「桜井地区は都市化が進んだから犯罪が増えた」といってしまえばそれまでです。でも、そういう言い訳はしたくありません。犯罪を防ぐ有効な手立ては、犯罪に対する「地域ぐるみによる監視の目」「個人個人の自己防衛力」を高めること。今は、パトロールや防犯学習などの地域でできる活動を、粘り強く継続していくことが大切だと思います。



散歩のついでに防犯パトロール「キジフクロウ隊」。健康と防犯の効果で一石二鳥。金曜日は子どもたちも参加。(三ツ川町内会)

事例&インタビュー
犯罪抑止へ…桜井地区の挑戦
山本清堯さん

自分でできる防犯対策② 自宅のカギかけ

この辺りは田舎だから…と思って自宅にカギをかけないのも危険。ドロボウに「どうぞ入ってください」といっているようなものです。留守のときはもちろん、在宅時でも、玄関や窓へのカギかけを心がけましょう。

「怖いね」
口々に話すアパートの住人たち。そこへ、偶然通りかかった近所の人が言いました。「2週間前にウチのクルマもや

「カーナビがなくなってる。…」
「どうやら、Sさんは部品ねらいに遭ってしまったようです。同じアパートの人たちも集まってきました。」
「いつの間にやられたんだろう?」
「それ聞いてSさんはびっくり。それを聞いてSさんはびっくり。それを聞いてSさんはびっくり。」



窓ガラスを割られてしまったSさんの愛車

「そんなこと全然知らなかった。知っていたら少しは対策できたのに。」

自分でできる防犯対策③ 近所の声かけ

「近所での声かけは、防犯設備の3倍の犯罪抑止効果がある」と言われています。犯罪者は、捕まるきっかけとなる世間の目を恐れます。住民の目は、最高の防犯カメラになるのです。



Sさんカーナビ盗難に遭うの巻

防犯

年度別犯罪発生状況(件)

| 年度 | 平成8年 | 平成15年 | 平成19年 |
|----|---------|---------|---------|
| 県内 | 10万1498 | 22万5706 | 14万3949 |
| 市内 | 2196 | 4619 | 3202 |

1~9月の市内犯罪発生状況比較(件)

| | |
|-------|------|
| 平成19年 | 2307 |
| 平成20年 | 2355 |

■防犯のターニングポイント
平成15年、愛知県は危機的状況を迎えていました。平成8年に10万件だった犯罪発生件数が、わずか7年間で倍増。
そんな中、地域が立ち上がりました。青色パトロールカーなどを使った地域の自主防犯活動
平成16年以降、減少してきた市内の犯罪件数。しかし、今年に入り再び増加の兆候が見られます。侵入盗、自転車盗、部品ねらい、車上ねらい。今、市内で起きている犯罪種別のワースト4です。このような事件が起これば、その犯人を逮捕するのは警察の仕事。では、事件を未然に防ぐのは誰の役割でしょうか？



住民と地元の高校生が、自転車のカギかけチェック。

■カギは地域コミュニティ
犯罪が増加した原因の一つは、人間関係の希薄化。特に人の出入りが激しい地域では、近所でうろろしている人がいても、その人が不審者か近所の人なのかわかりません。そんな状況が犯罪増加に拍車をかけている、ともいえます。
このようなことから、防犯対策には、地域ぐるみの活動が必要不可欠です。現在市内では、多くの地区で防犯活動が行われています。
その中から今回は、近年都市化が進む桜井地区の取り組みを取材しました。



神社や公園、物陰に潜む危険に注意して、夜のまちをパトロール(城向町内会)



桜井地区連合町内会長・山本清堯さん

わたしたち

自分でできる防災対策① 家具の固定

地震対策で一番大切なのは、生き延びること。地震直後の明暗を分けるのが家具の固定です。どれだけ丈夫な家に住んでいても、倒れてきた家具につぶされてしまつては元も子もありません。特に寝室の家具はしっかり固定しておきましょう。



横山町内会長・都築直之さん



同町内で9月21日に行われた防災訓練

よく、町内会(自主防災会)が「防災訓練をやりませう」というと集まつたのは役員だけということになつてしまいがちです。し

事例&インタビュー
テーマは地域交流…横山町の防災対策
都築直之さん

「朝っぱらからうるさいなあ。」謎の声で起こされてしまったSさん。天気が気になつたのでテレビをつけました。すると、画面に映し出されたのは水害の様子。「結構いろんなところで被害出てるじゃん!」



Sさん危機一髪の巻

防災

自分でできる防災対策②

防災は「意識すること」が重要。防災講演会で「自然災害は身近にある」ということを感じてください。なんと、アルファ米、簡易トイレ袋のおまけ付きです。

「これはすごい。ここも危ないかも。」と、かく大変なことになつていのが分かつたSさん。次はパソコンを使って、自治体のウェブサイトを眺めてみることにしました。しかし、特にこれといった情報はありません。

「肝心なときに役所は当てにならないし…。次に何かあったときは、どうすればいいの?」

防災講演会 問い合わせ▶防災課

- とき 11月23日(木)午後1時30分
- ところ 文化センターマツパホール
- 講師 小村隆史氏(富士常葉大学環境防災学部准教授)
- テーマ 直下型地震の恐怖~もし、猿投・高浜断層で地震が起きたら~

「〇〇町△△地区に避難勧告」そう、さっきの声は避難を呼びかける役所のパトロールカーだったのです。

「〇〇町△△地区に避難勧告」

「9月13日に岡崎市が震源の大地震が起きる!」

阪神・淡路大震災での救助

| 救助した人 | 割合(%) |
|-------|-------|
| 自力 | 34.9 |
| 家族 | 31.9 |
| 友人・隣人 | 28.1 |
| 通行人 | 2.6 |
| 救助隊 | 1.7 |
| その他 | 0.9 |

「防災のターニングポイント」平成7年に発生した阪神・淡路大震災。この地震で生き埋めなどに遭い救助された人のうち約95%が自力や家族・隣人の手で救助されています。逆に救助隊に助けられたのはわずか1.7%。この数字は、行政による防災体制の限界を示しています。

「力ギは地域コミュニティ」一般的に、都市化が進んだまちほど災害に対して弱くなる、という傾向があります。原因の一つに都市の構造的な問題があります。例えば、マンションなどの高層住宅では、電気や水道などのライフラインが断たれてしまうと、自宅での生活はままなりません。そして、避難所では、生活上の細かいルールを自分たちの手で決めていかなければならないのです。ここでも、やはり、人間関係が大切になってきます。

「そんなことが必要なの?」と



訓練にカレー作りは必要なの?これも交流のための立派な「訓練」なんです!

要援護者を救え! ~個人情報壁~

災害時に自力での避難が難しく、支援を必要としている人(在宅で生活する高齢者や障害者)を「災害時要援護者」といいます。そして、該当者の同意により、名簿へ登録し、災害時の救助に役立てるのが「災害時要援護者支援制度」です。



マンション住民も訓練に参加。仕切り板を破ってみたり、はしごを降りたり…。



昨年起こった新潟県中越沖地震でも、多くの人が避難生活を強いられた。

防犯・防災のカギ
地域コミュニティ

安城市の人口はまもなく18万人。平成元年の約14万人と比べると、この20年で、1年あたりおよそ2000人ずつ増加していることになりました。
少子高齢化が叫ばれる現在、安城市の人口の増加は際立っています。しかし、ここで問題となってくるのが「地域コミュニティ」です。
地域コミュニティを語るうえで、避けて通れないのが町内会

の加入率。近年、安城市の町内会加入率は、年を追うごとに下降しています。中でも、マンションやアパートの多い駅周辺でその傾向が顕著です。
防犯・防災のカギとなる「地域コミュニティ」。安城市の現状はどうなっているのか。発展が著しい三河安城駅の周辺の町を抱える箕輪町内会を取材しました。



田園の向こうにマンションが並ぶ、安城市ならではの風景。

箕輪町内会の区域は、箕輪町のほかに、三河安城東町・三河安城南町といった三河安城駅周辺地区が含まれています。しかし、同地区はマンションが多く、町内会への加入が進んでいません。やはり、地域の付き合いが煩わしいからマンションに入るといふ考え方があるのです。ただ、中には逆に、「災害時の不安から『町内会に入りたい』という声もあります。同じマンションの中でも意見がまとまらないのが現状なのです。今は、マンションの住民同士ですら交流がないので無理ありません。

回覧板を回すなど、町内会の運営を考えると、同じマンションでまとまって入ってもらうのが理想です。でも、町内会は任意団体。入りたくないと言っている人にまで加入を強制することはできません。わたしたちもただ入ってくださいと言うだけでなく、町内会に入ってもらうための努力が必要なのです。例えば、町内会で行う運動会や地元の祭礼。加入していない人でも参加しやすい状況を作り、交流を図っていくのが第一歩だと思います。

事例&インタビュー

地域を結ぶ…箕輪町内会の取り組み
加藤勝美さん



箕輪町内会長・加藤勝美さん

町内会に入っていますか？

市内在住の若い世代に質問をしました。

入っていません

- 20代男性
- どうやって入ればいいのか分からない
 - 「入って」と言われたら入る
- 30代男性
- 何かめんどくさい
 - 子どもができれば入ると思う

入っています

- 20代女性
- 引っ越してきたときに入った
 - 町内会が何なのかよく分かってはいない
- 40代男性
- 地域のための組織だから入った

…どうやら、町内会が何をしている組織なのか、余りピンときていない様子でした。

町内会って何をしているの？

市域全体を見渡さなければいけない行政と違い、地域に根ざした町内会にはできないことがたくさんあります。普段は意識していなくても、何かの恩恵は受けているはず。実は皆さんの生活に欠かせない組織なんです。

地域を守る

- 防犯パトロール
- 防犯灯の管理
- 防災訓練
- 災害発生時の行政と住民のパイプ役
- 防災設備の管理
- 清掃活動
- ごみステーションの管理

地域を結ぶ

- 運動会など地域の交流行事
- 回覧板による地域の情報提供
- 町内公民館など施設の貸し出し



町内運動会。子どもも大人もスポーツで交流。



町内で図上防災訓練。

おみこしは、三河安城駅周辺も回る。

Sさんのその後

盗難事件をきっかけに、Sさんのアパートの住人たちは、お互いのことを知ることができました。Sさんの隣に住んでいるおじさんは、寝る前に怪しい人がいないか注意することにしました。Sさんも、今では散歩のついでに近所をパトロールしています。近所の人に会ったときは世間話もするようになり

ました。
しかし、せっかく慣れたこの町から、Sさん夫婦は引っ越すことになりました。人間関係も新しい町で一からやり直し。でも、早く地域に溶け込みたいとSさんは思っています。なぜって？Sさんは言いました。「だって、みんなが仲良くした方が楽しいじゃん。」